



第5回トビタテ!

留学成果
報告会

ONLINE!



<発表者紹介>

K-01～10

【高校生】

K-01	宮下青生	都立三鷹中等教育学校	イギリス	3週間
K-02	曾我菜々美	清泉女学院高校	ニュージーランド	78日間
K-03	前田琴里	大阪教育大学付属高校 天王寺校舎	オーストラリア	2週間
K-04	西浦 碧	高田高校	フィリピン	3週間
K-05	當銘花奈子	武田高校	インドネシア	1カ月
K-06	田中佑菜	湘南白百合学園高校	アメリカ	2週間
K-07	樋澤秀悟	本庄東高校	アメリカ	8週間
K-08	成田紗花	神戸市立葺合高校	タンザニア	2週間
K-09	角田七菜	名古屋市立名東高校	オランダ	18日間
K-10	稲吉光里	久留米高校	フィリピン	3週間

D-01～10

【大学生等】

D-01	杉浦 由佳	東京大学大学院	アメリカ	9カ月
D-02	佐々木 亮太	東北大学	スウェーデン、フランス	11カ月
D-03	若杉 美穂	名古屋大学	イギリス	9カ月
D-04	【 辞 退 】		ウガンダ	3カ月
D-05	松本 啓	佐賀大学	オランダ、パラオ	1年1カ月
D-06	【 辞 退 】		アメリカ	12カ月
D-07	森下 仁道	筑波大学	ザンビアほか	12カ月
D-08	佐藤 文治	奈良学園大学	オーストラリア	6カ月
D-09	北川 美乃里	関西学院大学	オランダ、フィリピン	12カ月
D-10	尾瀨 千咲	広島大学	フィンランド	12カ月

英語の発祥地であるべき英語教育の姿を学ぶ

将来は英語教師になりたいと、夏休みに3週間、英国オックスフォードの語学学校に留学して英語の授業のあるべき姿を学んだ。ある時、ホストマザーに「日本人は英語を言語ではなく、教科として学んでいるね」と言われ衝撃を受けた。英語が上手くなる一番の道は生徒が能動的になることだと痛感。語学を学ぶ姿勢を根本的に変える必要性を感じて帰国した。



K-01●宮下青生（高校アカデミック、5期）
都立三鷹中等教育学校（イギリス）



K-02●曾我菜々美（高校アカデミック、5期）
清泉女学院高校（ニュージーランド）

幸福度の差って？～ニュージーランドと違う捉え方

国連発表の「世界幸福度ランキング」。それと同じ内容のアンケートを日本と留学先のニュージーランドで実施した。そこから分かった日本の幸福度ランキングを向上させるヒントとは？ 調査をお願いした「私」のバックグラウンドを全く知らない、文化や言葉の異なる現地の方々を「この人に協力してあげよう！」と思わせ惹きつける大変さを経験しながらも、大きな達成感を得ることができた。

コアラの指紋を観察しながらプレゼン技術を身につける

将来の夢は研究者になること。そのために必要な「研究力」「プレゼン力」を伸ばそうとオーストラリアでコアラの指紋を研究した。プレゼン教育が盛んなオーストラリアは発表者も聴衆も日本とは異なる雰囲気、実際に現地で見ると新たな発見があった。最終日のプレゼンでは、直前に思わぬトラブルが多発したが、自ら行動することと、周りの人々のサポートのお陰で乗り切り、評価してもらうことができた。



K-03●前田琴里（高校アカデミック、5期）
大阪教育大学付属高校天王寺校舎（オーストラリア）



K-04●西浦 碧（高校アカデミック、4期）
高田高校（フィリピン）

チャンスの神様の前髪をつかむ ～世界で活躍する外科医になるために

チャンスの神様には前髪しかない。だからこそ、その前髪をしっかりとつかまなければ、チャンスは走り去ってしまう。将来、世界で活躍する外科医になるためにフィリピンのセブ医科大学附属の語学学校で3週間、一般英語と医療英語を学んだ。私自身を変えてくれたのは出会った人達の存在で、それがチャンスでもあった。その出会いが自分の視野を、道を広げた。

「宗教×食」。私を変えた1カ月間

宗教と食。全く関係がないように見える2つの文化。しかし、本当は深いつながりがあるのです。今まで宗教に触れてこなかった私が、イスラム教徒の数が世界一多いインドネシアで宗教に触れた1カ月間。宗教や異文化に対する考え方から自分の将来像まで、全てを変えた私の留学経験をお話しします。



K-05●當銘花奈子（高校アカデミック、5期）
武田高校（インドネシア）

AI×医療の未来～最先端の知識・技術が集う環境で学ぶ

2019年夏、米スタンフォード大学で2週間の「STEMキャンプ」に参加した。実際にコンピューターでデータ解析をし、グラフで可視化するなどで機械学習の仕組みと構造を理解できた。ITを学んだ同世代と交流しながらシリコンバレーの企業も見学。英語力に加えて第2外国語の必要性や自分の技術力の未熟さを痛感し、将来に向けて具体的な目標が増えた。



K-06●田中佑菜（高校プロフェッショナル、5期）
湘南白百合学園高校（アメリカ）



K-07●樋澤秀悟（高校プロフェッショナル、5期）
本庄東高校（アメリカ）

IT最前線の米シリコンバレーで、より鮮明な目標を発見

「世界一のクリエイターになる」と決め、今年7～9月の8週間、米カリフォルニア州にIT留学をした。普段の生活では得られない体験、そして世界のIT業界をリードする様々な企業の方や仲間と出会い、漠然としていた自身の目標が「世界の社会問題を、映像技術を用いて解決するクリエイターになる」との明確な目標に向かって活動しようと決意できた。

子供たちの笑顔のために

私は約2週間アフリカのタンザニアへ行き、マサイ族村落の小学校で子供たちに英語や算数を教える、教育ボランティア活動をしました。子供たちは皆、タンザニアの将来を背負う未来。そんな未来を育て、学習環境を整える手伝いをし、楽しく学んでもらえる授業をしました。日本にいるだけではわからない現地の状況を知り、その支援の必要性を感じ、高校生の私が、今できる支援を考え実行していきたいと思いました。



K-08●成田紗花（高校国際ボランティア、5期）
神戸市立葺合高校（タンザニア）



K-09●角田七菜（高校プロフェッショナル、5期）
名古屋市立名東高校（オランダ）

助産師先進国オランダでのインターンシップ

なぜオランダは助産師先進国なのか。その理由を探るべく、日本の産婦人科で職場体験した知識を活かして現地の病院や助産院でインターンシップをした。大学病院と助産院の違いや、日本との違いは何か。妊婦さんや母親、助産師へのインタビュー、自宅出産の立ち会いなどからオランダの助産システムがどう人々の幸せを導くのか見つけた。

発展途上国の赤ちゃんを未来へつなぐ助産師になる

2019年の夏に3週間、フィリピンのセブ島で主に孤児院や、貧困地域の子供達との交流から発展途上国の現状や貧困の実態を実際に自分の目で見て学んできた。今回の留学で、自分の今を見つめ直し、未来を深く、そして広く考えることができた。たった21日間の留学だったが、物事を見る自分の目を新しく、クリアなものにできたように思う。



K-10●稲吉光里（高校国際ボランティア、5期）
久留米高校（フィリピン）

チャレンジしまくる留学～サステイナブルな社会を目指して

初めて一人で住む海外。わからないことだらけの世界です。それでも限られた時間で最大限のものを得るためには、「チャレンジし続けること」が大きなカギだと思っています。大きなチャレンジなのかどうかは問題ではありません。一歩踏み出す勇気を持てるかどうかにかかっているのです。私は留学先では、野生動物学を中心に、サステナビリティについて学んできました。その中で私の様々なチャレンジを正直にお話しします！



D-01●杉浦由佳（理系、9期）
東京大学大学院農学生命科学研究科（アメリカ）



D-02●佐々木亮太（理系・複合・融合系、9期）
東北大学（スウェーデン、フランス）

体に優しい診断・治療機器の開発研究者を目指して

これまで訪れたことのなかったヨーロッパの研究の様子について学ぼうと、スウェーデンとフランスに留学した。スウェーデンでは大学の研究室でフィールドワークを行い、現地の人々の研究に対する考え方やスタイルについて学んだ。また、フランスでは研究インターンシップを通じて最先端の医工学研究に触れることができた。今回は、この留学を経て学んだことと自分の価値観の変化について発表したい。

普通の21歳大学生がイギリスで演劇して57カ国を巡る話

1年前、私はちょっぴり怖がりな普通の大学生。そんな私が昨年、演劇経験ゼロにしてイギリス最高峰の演劇学科に留学し、唯一の留学生ながら舞台に立った。そして1人でヨーロッパ全カ国を旅しながら、教科書からでは決して分からなかった光景をこの目に焼きつけた。まさに自分が変わっていった1年。なぜ私にこんなことができたのだろう。全てはきっとそう、胸に手を当てて“今の私”と向き合ったことから始まった。



D-03●若杉美穂（世界トップレベル、9期）
名古屋大学（イギリス）

参加辞退

e-Learningで世界最貧国ウガンダの教育格差を是正する

皆さんは世界の教育格差をどう解決すべきだと思いますか？
 高校生の時から教育格差に興味があった私は、「e-Learningが教育格差と貧困を是正する有効な手段である」という仮説を立て、世界最貧国ウガンダで検証しました。ストリートチルドレンが通う小学校で先生をしながら、ICTの市場調査を行い、実際に自分で作成したe-Learning授業を生徒に見てもらって有用性を検証しました。今日はその結果について実体験を交えながら、お話しさせていただきます。

経済合理性の下で衰退していく田舎で事業を起こす

田舎で「仕事」を創れる人になりたいと1年間、最先端の農業技術を持つオランダの企業でインターン。高い生産性を誇る農業を学ぶと同時に、ライターとして同国各地の様々な農場を取材した。活動を通じて「農業」の定義が変化し、留学途中で農業が発展していない国に行きたいと考えパラオへ。産業がない田舎で事業を作っていくための考え方や様々な業界を相乗効果で生かすことを学んだ。



D-05●松本啓（理系・複合・融合系、7期）
 佐賀大学（オランダ、パラオ）

参加辞退

NYでミュージカル俳優に！留学で夢を叶える方法

世界中から才能あふれる人が集まる米ニューヨークで「どうしても舞台に立ちたい！」という大きな夢だけを持って上陸。英語も喋れない、プロの俳優でもない、大きな実績もなくクラスで常に底辺だった私が、多くの失敗と悔しい経験を経て今年の夏に現地で念願のミュージカル俳優デビュー！その背景には「留学生」だけが持つ3つの力があった。



「森下仁道物語 ～アフリカ編～」

幼いころからの夢だったプロサッカー選手としてのキャリアをスタートさせたアフリカザンビア共和国。指導者としても、のべ1000人以上の子どもたちとサッカーを通して交流するほか、個人トレーナーとして起業し アフリカスポーツの可能性を模索してきた。これからもサッカー選手をしてあり続け、次なる目標に向かって発展途上にある「森下仁道」を、期待をもって応援していただきたい。

D-07●森下仁道（新興国、9期）
筑波大学（ザンビアほか）

環境保護を通して見つけた私の夢

環境保護を持続的に続けるためには、人員とそれらを動かす資金が必要。そのノウハウを学ぶためにオーストラリアへ留学した私は、環境保護だけでなく、自分と向き合う時間を得ることができた。



D-08●佐藤文治（地域人材、9期）
奈良学園大学（オーストラリア）



D-09●北川美乃里（多様性、9期）
関西学院大学（オランダ、フィリピン）

5年がかりの美容留学

高校生の時にヘアメイクを学ぶためにハリウッドにトビタった私が、今度は「エシカルコスメを日本に」というテーマで、オランダでは持続可能なビジネスを学び、フィリピンではインターンを経験しました。留学中はお化粧品を通して女性の自尊心向上につながるイベントや、手作りオーガニックコスメのワークショップを開催し、美容を通じた社会貢献を実践しました。

教育大国フィンランドで生涯音楽学習支援を学ぶ！

“Well-being”を目指す、教育大国フィンランド。この国の音楽教育から「日本ですべての人に『一生モノの音楽』に出会えるチャンスをお届ける」ためのヒントを得ようと、1年間、ユヴァスキュラ大学への交換留学と幼児音楽教室や音楽イベントでの調査活動を行いました。フィンランドの人々の生活、文化、音楽、学び方・教え方、そして価値観を肌で知り、これから「私」が「日本」でどのような「音楽学習」支援ができるのか、追究していきます。



D-10●尾瀨千咲（多様性、9期）
広島大学（フィンランド）